

学術リンクシステム SFX における 電子ジャーナル・リンク精度の考察

今野 穂

札幌医科大学附属図書館

背景：今日、急速な勢いで普及している電子ジャーナルは学術コミュニケーションの様々な側面において変化をもたらした。大学図書館においては PubMed 等の二次情報データベースや論文中の引用文献間におけるリンクが可能であると言った電子ジャーナルの特性を活かした学術情報の提供が求められているとともに、One Stop Shop による学術情報の提供が可能な Ex Libris 社 SFX、Ovid Technologies 社 LinkSolver、Openly Informatics 社 1Cate 等のリンクシステムが注目されつつある。

目的：札幌医科大学附属図書館（以下、「当館」と言う）は 2002 年 4 月、Ex Libris 社学術ポータルシステム MetaLib/SFX の導入を機に Ovid、OPAC、ILL 等の従来型サービスシステムと国外学術雑誌約 2,000 誌とのリンク・サービスを開始した。本研究では状況判断型リンク（Context-Sensitive Link）形成モジュールである SFX（「Special Effect」の意味）の電子ジャーナルに対するリンク精度について調査を行うとともに、SFX による One Stop Shop サービスの可能性について考察する。

方法：SFX のリンク精度についてカバー率とリンクレベルの 2 点に対し、調査を行った。カバー率については当館購読の国外学術雑誌電子ジャーナル 2,298 誌の SFX 設定数により算出した。またリンクレベルについては Ex Libris 社のサイトで公表されている Target リストをもとに区分するとともに、各電子ジャーナルシステム毎に無作為にタイトルを抽出し、実際のリンクレベルを確認し、集計を行った。

結果： 1.カバー率については当館購読の国外学術雑誌電子ジャーナルの約 92%を網羅しており、カバー率そのものとしては十分満足する結果が得られた。

2.リンクレベルについては設定したタイトルの 96%と言う非常に高い比率で論文単位にリンク可能であることが確認された。SFX は ProQuest をはじめとした多くの Contents において「KnowledgeBase」と呼ばれる自身の情報をもとにリンクを形成しているが、CrossRef DOI（デジタル・オブジェクト識別子：Digital Object Identifier）Resolver の仲介によってもリンクを形成することが可能であり、本調査においては論文単位のリンクのうち 12%が CrossRef の仲介によることが確認された。

結論：SFX は現在、NISO Standard Committee AX で規格化の検討が進められている OpenURL を技術仕様のベースとしているが、ScienceDirect Web edition に見られる Moving Wall への対応や Unicode 採用による多言語化など随所において SFX の独自の構想と技術が盛り込まれている。リンク元リソースやリンク先のターゲットを選ばず、カバー率やリンクレベルの向上が図られ、かつ Moving Wall 等の環境変化を考慮に入れた SFX の Context-Sensitive Link に対する考え方は One Stop Shop 実現において不可欠であり、今後の学術リンクの主流になるものと期待される。